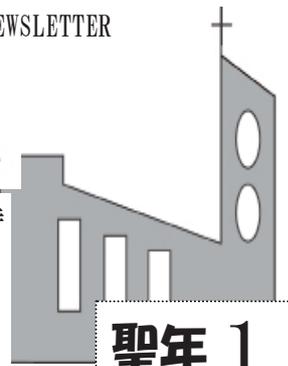


カトリック大名町教会ニュース

DAIMYOUMACHI CATHOLIC CHURCH NEWSLETTER



聖年 1

〔ミサ時間〕 主日：7時・9時30分／ベトナム語（第2・第4日曜日）：13時半／英語：16時
 〔ホームページ〕 <http://www.daimyomachi-c.or.jp/>
 〒810-0041 福岡市中央区大名2-7-7〔巡〕能古島カトリック教会 ミサ（土）18時
 TEL：092-741-3687 Fax:741-5107 〒819-0012 西区能古弁当 1621-12
 発行責任者：中村 彰 神父

1月1日 神の母 聖マリア 世界平和の日

福岡教区年間目標：互いに支え合う「交わりの教会」となる

大名町教会年間テーマ：互いに支え合う「交わりの教会」となる

Becoming a "Church of communion" and mutual support

1月のお知らせ

- ◆1日（水）
 - ・神の母聖マリアの祭日ミサ10時
 - ◆5日（日）
 - ・ふれあいの会 9時半ミサ後
 - ◆12日（日）
 - ・新年会・新成人祝賀会9時半ミサ後
 - ◆19日（日）
 - ・キリスト教一致祈祷会 18時
 - ◆26日（日）
 - ・典礼の学び 10時45分
- 「神のみことば」
講師：深堀 純 氏

聖書学習会

- ◆中村彰神父：キリスト教入門講座
木曜日：10時・19時
- ◆チュエン神父：聖書のわかちあい
木曜日：14時

「希望は欺かない」

2025年 通常聖年開幕



2024年12月29日（日）14時、アベイヤ司教によってカテドラルの「聖年の扉」が開かれました。聖年を生きる私たちは希望の巡礼者。私たちの生き方が「主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。」（詩編 27.14）と語りかけるものとなりますように。

2025 聖年



福岡教区創立
100周年開幕
2024 2027



ゆるしの秘跡：希望される方は、司祭に直接ご相談ください。（定期：毎週土曜日10時～11時半）

2025 聖年と新年のお慶びをもうしあげます。

新年にあたって

明けましておめでとうございます。年の初めに当たり、今年一年が神の祝福に満たされた年であることを祈りいたします。

今年には聖年に当たり、希望の巡礼者がテーマになっていきます。希望というとギリシャ神話にあるパンドラの箱という話を思い出します。パンドラは全能の神ゼウスによって地上に送られた最初の女性です。ゼウスは彼女に絶対に向けてはならないとあって、あらゆる災いを封じ込めた箱を持たせました。開けてはならないと言われたら、開けたくなるのが人間の常で彼女は箱を開けてしまいました。箱を開けると、病氣、飢え、貪欲、憎悪、猜疑、怒り、悲しみなど、あらゆる不幸の種が箱から飛び出していきました。それ以来、人間界には不幸が絶えなくなっていました。

しかし、急いで蓋を閉めたおかげで、箱の隅に小さな光る石が一つ残っていました。その石には希望という文字が書かれています。

今、世界は戦争や自然災害、貧富の格差拡大、疫病で苦しみ、日本社会でも形を変えた詐欺、闇バイトなど不安がいっぱいです。そんな中でキリスト者にとって唯一の希望はイエス・キリストにあります。イエス・キリストを信じることによってキリストによる救い、永遠のいのちの約束、再臨による世の完成を希望します。

希望するから苦しい状況でも絶望することなく、生活の中で愛の実践を淡々と行うことができます。暗いと不平を言うよりも、すでに希望の光を灯し続けましょう。

大名町教会主任 ヨセフ 中村 彰 神父



このロゴマークは、地球の四方から集まって来た人類を、四人の図案化された人物によって表現しています。彼らは抱き合っていて、すべての民を結び付ける連帯と友愛を示しています。

先頭の人物は十字架をつかんでいます。それは、抱いている信仰のしるしであるだけでなく、捨て去ることのない希望のしるしでもあります。なぜなら、希望はいつでも、そして深く困

窮しているときにはとくに、求められるものだからです。

人物の下に押し寄せる波は、人生の旅がいつも穏やかな歩みであるとは限らないことを示しています。個人的な出来事や世界に起きていくことの多くは、より強く希望を求めさせるものです。ですから、長く伸びて、錨の形が変わって波に下ろされている、十字架の下部が強調されているのです。ご承知のとおり、錨は希望の比喩としてよく用いられます。事実、船乗りの符牒では、嵐の際に舟を安定させるために、緊急発動するボートに

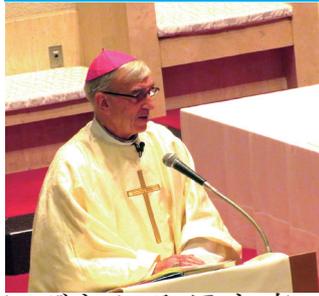
よって投錨される予備の錨のことを「希望の錨」といいます。

このロゴが表すものとして見逃してはならないのは、巡礼の旅は個人的なものではなく共同体的なもので、よりいっそう十字架へと向かっていくダイナミズムを備えたものだということです。

この十字架は、静的ではなく動的なものです。人類を捨て置かず、人類に向かって身を伸ばして、存在の確かさと全き希望とを与えてくださるのです。

翻訳：カトリック中央協議会事務局

主のご降誕 おめでとうございます！



の喜び、病人の手をほめて、み、ともにいてくれる喜び、とも

主のご降誕を祝うために、24日の2回の夜半ミサに800人を超える人々、25日に200人を超える人たちが集まりました。

アベイヤ司教は次のように語られました。クリスマス喜びは大きな喜び、生きていく喜び、明日に向かっていく喜び、心を支える光を与えてくれる喜びであり、人が奪ってはならない。イエスを通して神は私たちに喜びを感じさせてくださる。行きつまりを誰かがいてくれて乗り越えた時

いうことは喜びの基本。本当の喜びは自分が獲得するものではなく、周りの人々とともに与えてもらう喜び。「インマヌエル（神がともにいてくださる）」。イエスさまがもたらした喜びを誰でも感じることができるよう、それを奪われていく人々にも、わたしたちが努力して分かち合うことによつて

私たちの喜びも増えてくる。喜びのうち



道行く人にイエス様の誕生を知らせます



預言者の言葉を伝えます

クリスマスの喜びと福岡教区100周年の喜びの垂れ幕です



福岡雙葉学園高校生の掃除ボランティア70人



イエス様の飼い葉おけを作ります



落ちたロウのしみはアイロンの熱が一番



クリスマスミサで使用の資料1000部

主のご降誕をお待ちしましたー私たちの心も教会も整えて！

聖年 100周年 福岡教区巡礼指定教会

○福岡地区 浄水通教会・カテドラル大名町教会

○筑後地区 久留米教会

○北九州地区 小倉教会

○佐賀地区 佐賀教会

○熊本地区 島崎教会、八代教会、大江教会

*聖年の一つの伝統は巡礼です。巡礼指定教会を訪れ、私たちは神の国に向かつて歩んでいることを思い、そのための恵みを願いましゅう。

教会学校2年ぶりのクリスマスパーティー

2年ぶりのパーティー。中高生も入れて子ども20人、保護者とスタッフ20人、総勢40人の参加。そして、中村主任神父様。

聖書朗読に始まり、中村神父様のクリスマスのお話に聞き入りました。

オードブルを食べながら、保護者同士の交流を願い、繋がりを深めるために、家族紹介をしました。家族のいいところや個性を紹介しました。

家庭から景品を持ち寄ってのビンゴゲームをし、「こんにちは。ようこそ！」

「ありがとう」を意味する「アロハ・エ・コモ・マイ」のダンス。「ようこそ大名町教会学校へ」

「神様への感謝」の気持ちを込めて

みんなで踊りました。神父様との交流、保護者同士の交流やつながりができ、楽しく、素晴らしいパーティーでした。このような集まりを

継続していきたいです。
ルチア 豊嶋 幸恵



みんなで「アロハ・エ・コモ・マイ」ダンスでごあいさつ!

ベトナム語の降誕祭ミサ 300人以上が参加

25日(水) 19時から、チュエン神父司式でベトナム語ミサが捧げられました。

平日にもかかわらず、昨年よりも大幅に多い約320人もの人たちが集まりました。

きつと主のご降誕の喜びが人々を引き付けたのでしよう。ご自分と家族、そして世界の平安と希望を新しい年に向かって祈りました。

洗礼者ヨハネ
フアム・バン・チュエン神父



戦争が終わるようにと祈った 英語ミサグループの降誕祭

12月25日(水) 16時から、高宮教会のプラビオン神父の司式のミサがありました。約200人が集まりました。

主のご降誕の喜びを感じながら、祈りました。「健康に恵まれるように」



族や友達が安全に暮らせるように」「戦争が終わるよう」「勉強を助けてくださるよう」に「2025年がいい年になるように」。多国籍の人が集まったミサ。

神さまのお恵みが豊かにありますように。
アンナ・ルー

「能登半島災害支援」 街頭募金に立ちました

12月1日(日)、ミサ後、教会共同体の行事として街頭募金を行いました。出発前に教会で募金してくださった方々もいらっしやいました。宣教司牧評議会委員、教会学校の子ども達・スタッフ・保護者、信徒が天神界限5ヶ所に立ちました。今回の目的は「能登震災支援」。

「能登支援でーす。よろしくお願ひします！」大人も子どもたちも、大きな声でお願いしました。約1時間の活動を教会に戻ってき



て、評議委員が準備していたパンやジュースを飲食し、子どもたちの笑顔がありました。街頭募金で集まった金額と、英語ミサで集めていただいた金額を合わせて203,844円はカリタスジャパンを通して能登災害支援にあてられます。

福岡市民の皆さんにキリストの誕生を知らせたい

第75回福岡市民クリスマスが12月9日(月)、福岡市民会館で開催されました。福音の朗読に続き、第一部は、全盲の伝道者北田康弘氏の「讚美と証」。

第二部では、大分教区長森山信三司教によるクリスマスメッセージと続きました。

終演前の第三部、カトリック・プロテスタントの各教会からの聖歌隊と西南学院大学聖歌隊チャペルクワイヤ編成の「福岡市民クリスマス聖歌隊」による聖歌の合唱。「きよしこの夜」は、会場と一つになってキリストの誕生を喜び合う歌声に満たされました。



福岡のキリスト教各派信徒で編成された福岡市民クリスマス聖歌隊

クリスマスメッセージをくださった森山司教様は「クリスマスは、神様が大切な御子を私たちに与えてくださったことを祝う日。キリストから光をいただき、周りを暖かくする人になろう。ベツレヘムは今年も戦地。兄弟姉妹に思いを傾け、家庭、国、世界の平和のために祈りを捧げよう。」と呼びかけられました。「本当のクリスマス」とは何かを教えてくださいました。

宣教司牧評議会

(12月15日)

◆議題

- 1 22日ミサ後に大掃除を実施
- 2 クリスマス特別献金の支援先は、美野島司牧センターとベトナム災害への支援

◆報告事項

- 1 各委員会報告
- (1) お通夜検討委員会
 - ・お通夜を教会で行いたい意向に伝えるための体制づくり、条件を検討
- (2) カテドラル利用規定検討委員会
 - ・カテドラルの施設貸し出しの目的・対象・範囲等を検討
- (3) 駐車場検討委員会
 - ・駐車場利用規則の整備、駐車場利用登録申込・駐車許可証交付申請準備
- 2 各部活動報告
 - (1) 街頭募金で新天町は新天町事務所 所の許可を得る必要あり
 - ・大人26人、子ども15人。41人参加
 - (2) 新成人の祝福式と小教区新年祝賀会
 - ・新成人対象者は12人で欠席4人、不明3人。残り5名の返事待ち。
 - ・食事内容の質をあげることで、外国語ミサの人へ声かけ、予算を、70,000円から100,000円へ
 - (3) 営繕部
 - ・施設電柱撤去に伴う電話回線引込み変更改修等工事費：¥565,400を承認
 - 「一方通行」「右折」表示、車路幅員の拡大、駐車場出入口回転灯設置工事総額：¥370,000 (税抜き) 承認

- (4) 避難訓練の振り返り
 - ・スタッフの協力人数11名、訓練参加信徒数 209名
 - ・マイクの呼び掛けと非常ベルが同時だったので聞き取りにくかった
 - ・避難訓練の事前のお知らせをより詳細に
 - ・英語ミサ、ベトナム語ミサの人が一緒に参加できないか検討
 - ・補助が必要な人への対応を習慣付ける必要あり
 - ・消防設備点検後の不備事項について消防署から指摘あり、計画的に改善
 - (5) 典礼委員会報告(典礼部)
 - ・降誕祭ミサは避難経路確保の為、着席のみで与る。立席でミサには与れない。1F講堂に20席(スクリーン配信有)
 - ・「典礼の学び」(年2、3回)。一回目を1月26日(日)に実施
 - ・共同回心式を四旬節中の平日、昼と夜に行う計画
 - ・12月29日(日) 聖年開幕ミサ、教区典礼より奉仕者の協力依頼あり
 - ・降誕祭ミサ時、鐘楼、垂れ幕等のライトアップを実施
 - (6) その他
 - ① ホークス優勝パレードの振り返り
 - ・花壇に囲いを設置し登れない様にした事で、大会ボランティアから感謝
 - ② マリア像後ろのバラの管理が難しく、今後の在り方を検討
 - ③ 2025年聖年の行事について
 - ・「希望」をテーマとした特別な年にするために、聖年検討委員会を設置
 - ④ その他
 - ・宣教地召命促進の日献金(12/1) ¥55,920

- ・福岡市民クリスマス献金 (12/1) ¥40,477
- ・能登支援金 街頭募金金額 ¥131,844 (12/1) 英語ミサ ¥72,000 (12/1)

火災避難訓練

12月8日、ミサ終了直後に、火災を知らせるけたたましいベルが鳴って火災避難訓練開始。

出火時はエレベーターの使用は不可。外階段から避難しました。

・介助を必要とする人には助け合って、全員駐車場に避難できました。

・火元に見立てた的に向かって、訓練用の水消火器で消火する訓練も行いました。



「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」を守ろう。

大名町教会の現勢 12月

- 【転入】ようこそ (教区・教会から)
- ・パウロ 安武 信吾(福岡・浄水通)
- ・テレジア 安武 はな(福岡・浄水通)
- 【帰天】永遠の安息をお祈りします
- 12月6日
- ・ベトロ 木村 静夫

ミサ、それは出来事

教皇フランシスコは、二年ほど前に、典礼、特にミサについての文書を全教会に向けて送られました。題は「わたしは切に願っていた」。最後の晩さんの初めにイエス様が言われた次の言葉からとられたものです。「わたしは、苦しみを受ける前にあなたたちといっしょにこの食事をすることを切に願っていた」(ルカ22、14)。

最後の晩さん、すなわち最初のミサはこのイエスの切々たる思いの中で始められました。このとき以来二千年余、主のこの思いに駆り立てられたキリスト信者たち(教会)によって、ミサは連綿と受け継がれ、世界中に広がって今日に至り、これからも世の終わりまで続けられていきます。大名町教会で行われるミサも、この長い歴史の一つの大切な一コマを紡ぎ、歴史に刻まれていく「出来事」です。そう、ミサは出来事です！単に心の中で思い起こされる儀式ではありません。聖書の朗読に耳を傾け、パンとぶどう酒、司祭と会衆の所作などのしるしを以て、肌で実感する救いの出来事、神への賛美と感謝の出来事です。信仰によって、私たちは、そこでキリストとじかに出会い、キリストにおいて一つになります。

教皇様は言います。「典礼をささげるのは一つの芸術です。そのために、五感に触れるしるしを大切に、少しでも美しい、感動的なものにし、作業です」。

ミカエル 深堀 純